

近づく衆議院総選挙に勝利しよう!

—民社協会所属候補20名立候補予定—

民主党、自由党の合流で

政権交代可能な2大政党制が実現

民主党と自由党の合流が7月23日、9月末日までに合併することで合意した。これまで民社協会所属国会議員は民主党、自由党と主に分かれていた(山谷えり子、金子善次郎両氏は保守新党所属)。

民主党、自由党の合流は、以前から鳩山前民主党代表が提唱していたが、両党の結党の経緯などから実現ができていなかった。衆議院選挙が近づくにつれ、次の総選挙で自民党を中心とする連立政権から政権を奪取し、政権交代を実現するために、大同について、合流することを決めた。

従来、民主党、自由党公認でそれぞれが推薦するかたちで衆議院候補者を決めていたが、10月5日に両党の合併大会が開催されて、正式に新しい民主党の公認候補者となる。

菅民主党代表、小沢自由党党首の英断で両党の合併は決定したが、両党とも結党のいきさつも独自の政策も持っているがゆえに、政党の合併は簡単なことではない。その困難を乗り越えて合併に至ったのは、やはり、現在の自民党を中心とする政権は早晩、行き詰まり、新たな政権の受け皿を早急に用意する必要がある、という認識で両党の幹部が一致したからである。

小泉総理は「改革なくして成長なし」と叫ぶだけで、一向に経済を上向かせ、失業率を低下させ、国民を安心させる政策をとろうとしない。完全失業率は5%台半ばを推移したままである。

政治改革で導入された小選挙区比例代表並立制は、本来、政策本位、政党本位の選挙を確立し、衆議院総選挙を「政権選択の選挙」にすることに狙いがあった。2つの政治勢力による政権交代を容易にし、緊張感ある政治を確立することが目的とされた。現在まで2回の総選挙が実施されているが、本来の目的を達しているとはいえない。

それには政党側の要因も大きい。中選挙区制の時代と同様に野党が分立し、有権者の目には政権選択の選挙とうつらず、マスコミもそのような扱いをしなかった。

新しくできる民主党は、明確に政権を担うことを目的として結成された。すでに衆議院議員だけで130名を超える堂々たる政党であるが、政権を担うにはあと100名ほど足りない。

合併前から両党は選挙区調整を行い、公認と推薦を行っ

てきた。現在のところ、新民主党で立候補する予定候補者は、233名(9月17日現在)となっている。最終的には社民党候補者などを推薦する選挙区を含め、全300小選挙区に候補者を立てる予定である。

そのうち民社協会に所属している候補者は20名である。全員の当選に向け全力を尽くし、次期総選挙で政権交代を実現しよう。

民主党公認候補予定者一覧

(民社協会所属・2003年9月17日現在)

選挙区	候補者名	年齢	現・新・元
北海道2区	三井 辨雄	60	現
北海道10区	小平 忠正	61	現
東京3区	松原 仁	47	現
東京5区	手塚 仁雄	36	現
東京10区	鮫島 宗明	59	現
東京13区	城島 正光	56	現
神奈川4区	大石 尚子	67	現
神奈川5区	田中 慶秋	65	現
山梨3区	後藤 斎	46	現
愛知7区	小林 憲司	39	現
愛知8区	伴野 豊	42	現
愛知13区	島 聡	45	現
三重1区	中井 治	61	現
滋賀1区	川端 達夫	58	現
京都1区	玉置 一弥	59	現
大阪8区	中野 寛成	62	現
大阪17区	西村 真悟	55	現
福岡9区	北橋 健治	50	現
長崎1区	高木 義明	57	現
宮崎1区	米澤 隆	63	現

協会ホームページ開設

ホームページアドレス(URL) <http://www.minsha.org/>

民社協会ホームページを9月に開設しました。協会の歩み、所属国会議員、役員、地方民社協会一覧、協会トピックス、友好団体情報などを掲載しています。ぜひ1度、アクセスしてみてください。今後も情報の電子化を逐次、はかっていきます。